

# 令和元年度

# 「言語聴覚の日」イベント報告



## 茨城県

茨城県では2018年度より失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業を開始し、初年度は23名の修了者を輩出しました。そして、失語症者に向けた支援事業のさらなる発展、県民への正しい理解と啓発の為に失語症者支援をテーマとした市民公開講座を2019年9月8日(日)茨城県立健康プラザにて開催し、83名の方々にご参加頂きました。

第1部では、『失語症の人と話そう』という演題で失語症に関する基礎知識や対応方法について宇野園子先生(NPO法人和音 代表理事)にご講演頂きました。自分の意思が伝えられない辛さ、周囲の方々の正しい理解がどれほど大切であるか、失語症のある方にはそれぞれ違う症状、不安、困難感があり、支援していく際にもその方に合った接し方や支援の仕方があること、失語症についての理解を深めていくことの重要性を改めて学ぶことが出来ました。

第2部のシンポジウムでは、『失語症との共存』という演題で失語症者の社会復帰について吉田真由美先生(フリーランス)にご講演頂き、次いで失語症友の会(葵の会)から当事者の方3名にご登壇頂きました。3名の方には、失語症を呈してから現在までの苦労と社会復帰までの経過、今後の失語症者向け意思疎通支援者に希望すること等を話して頂き、フロアからの質疑応答にもお答え頂きました。失語症を持ちながらも実際に社会復帰をされた方が、不便さは感じながらも前向きに物事に向き合う姿がとても印象的でした。また、当事者の皆様が堂々とお話されている姿にも感動しました。

1983年には3名しかいなかった茨城県内の言語聴覚士も、現在では約400人に増加しました。今回、失語症者支援をテーマとした市民公開講座を開催したことで、コミュニケーションの専門家としてどのように寄り添っていくことができるかを考える良い機会になりました。私たちも今以上に失語症者の想いと取り巻く環境を深く理解していく努力をしていかなければいけないと感じ、社会における失語症への理解度の低さからも苦労している方が多い現実を改めて痛感しました。今後、さらに失語症への社会的な理解が深まっていき、失語症者向け意思疎通支援者養成研修及び派遣事業に興味を持つ方が増え、当事者の方々が必要な時に必要な支援を受けられるような社会にしていけるよう尽力して参ります。

横田彰 いちはら病院  
飯田裕幸 小豆畑病院  
iida\_n@agate.plala.or.jp



テーマ：失語症をご存知ですか？  
第1部 講演 『失語症の人と話そう』  
講師：宇野園子先生 (NPO法人和音 代表理事)



第2部 シンポジウム 『失語症との共存』  
座長：吉田真由美先生 (フリーランス 言語聴覚士)  
シンポジスト：葵の会のメンバー (失語症当事者3名)

